

新規事業採択時評価結果（平成18年度新規事業化箇所）

担当課：国道・防災課

担当課長名：鈴木 克宗

事業の概要

事業名	沖縄西海岸道路 一般国道58号 浦添北道路	事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自：沖縄県宜野湾市宇字地泊 至：沖縄県浦添市字港川	延長	2.0 km		
事業概要	<p>沖縄西海岸道路は読谷村から糸満市に至る延長約50kmの地域高規格道路であり、那覇空港、那覇港等の広域交流拠点を相互に連絡する重要な路線である。</p> <p>浦添北道路は、浦添市を通過し沖縄西海岸道路の一部を構成する延長約2.0kmの道路である。</p>				
事業の目的、必要性	<p>沖縄西海岸道路は沖縄西海岸地域の開発拠点の支援、観光及び自立型経済の発展の構築と持続的発展を支える基盤づくりに必要な道路として「沖縄振興計画」に位置付けられており沖縄西海岸道路の一部である浦添北道路は現国道の渋滞緩和はもとより、幹線道路の体系的な網の形成に寄与し、地域交通環境の改善やプロジェクトの開発効果を高めるために早急に整備する必要がある。</p>				
体事業費	約175億円	計画交通量	24,500台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
 浦添北道路は、交通混雑の緩和、地域交流の促進等に重要な役割を果たすことが期待されており、浦添市長より早期整備の要望（平成17年8月22日）を受けている他、浦添市議会議長や多くの団体から同様の要望を受けている。

事業採択の前提条件
 費用対便益：便益が費用を上回っている
 手続きの完了：H17.9 都市計画決定

事業評価結果

費用対便益	B/C	6.0	総費用：152億円 （事業費：144億円 維持管理費：8億円）	総便益：910億円 （走行時間短縮便益：807億円 走行費用減少便益：69億円 交通事故減少便益：34億円）	基準年 平成17年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= (交通量 %)	B/C= (交通量 %)	
	事業費変動	B/C= (事業費 %)	B/C= (事業費 %)		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	◎	渋滞交差点を解消する（港川交差点付近：現況旅行速度11.0km/h） 【渋滞損失時間の改善】約226万人時/年 ⇒ 約129万人時/年 【H32年 整備有無】約244万人時/年 ⇒ 約129万人時/年 【1kmあたり（台kmあたり）渋滞損失時間】約67万人時/年km、約2.1人分/年台km（H16） （沖縄県平均：約9.4万人時/年km（約7倍） 全国平均：約4.2万人時/年km（約16倍）） 【渋滞度曲線】沖縄県内センサス区間の上位1割に含まれる 【その他の特徴】1kmあたり渋滞損失時間は沖縄県内第4位 ※データは県内平均・全国平均と比較すること	
	事故対策	○	交通を分散させることにより事故件数の減少を図る事業である。 【死傷事故率】約132件/億台キロ（H15）（死傷事故率比（県内平均比）1.8（H15）） （沖縄県平均：約72.9件/億台キロ（約1.8倍） 全国平均：約119.9件/億台キロ（約1.1倍）） 【事故率曲線】沖縄県内区間の上位2割に含まれる 【その他の特徴】死傷事故率比2以上の箇所が存在（最大死傷事故率230.5件/億台キロ） ※データは県内平均・全国平均と比較すること		
	歩行空間	—			
	社会全体への影響	住民生活	—		
		地域経済	○	空港・港湾の利便性向上：コンベンションセンター～那覇空港への所要時間44分⇒35分 ：コンベンションセンター～那覇港への所要時間33分⇒24分	
		災害	○	緊急輸送道路の代替路の確保：第1次緊急輸送道路に位置づけられている国道58号の代替路となる。	
環境		—			
地域社会	—				
事業実施環境	—				

採択の理由

費用対便益比が6.0と便益が費用を上回っているとともに、都市計画手続きが完了したことから、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、当該事業箇所の現況渋滞損失時間及び事業実施による改善はともに大きく、渋滞対策の必要性・効果は高いと判断できる。
 以上より、本事業を採択した。

※評価手法及び評価データについても公表（公表方法については検討）。